

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	佐藤義亮生誕130年記念事業費									
担 当 課 係 名	学 習 資 料 館		課	イ ベ ン ト 交 流 館		係	作 成 者	高橋眞行美		
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱		明日を担う人材を育む教育文化のまち					総合計画の ページ		
	基本計画		生涯学習の推進と社会教育施設の整備							
	主要施策		イベント交流館の充実					95～96		
予 算 費 目	一 般		会 計	10 款	教 育 費		5 項	社 会 教 育 費	5 目	学習資料館及び イベント交流館
事 業 期 間	平成 20 年 度 ～ 平成 20 年 度					新 規 / 継 続 の 区 分			新 規	
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理									
根 拠 法 令 等	仙北市総合情報センター条例									
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務									
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助									

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	県民・市民及び地域住民 新潮社の創業者「佐藤義亮生誕130年」を記念し、記念式典・高井名誉館長等の基調講演
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	出版文化を確立するとともに近代以降の文学興隆と出版事業に多大な貢献を果たした 佐藤義亮の足跡を広く県民並びに市民に顕彰し、後世に伝えることを旨とする。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	佐藤義亮生誕130年にあたり、日本近代文学史及び出版界に確固たる足跡を残した郷土 の先人の遺業を顕彰するとともに、100年を超えて出版を通して故郷との交流が続くこ とを願って記念事業を開催する。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	開館日数	目標	日			300	
			実績	日			300	
			達成度	%			100.0%	
	成果指標	入館者数	目標	人			6,000	
			実績	人			6,554	
			達成度	%			109.2%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)						1,091	
	人 件 費 (B)		—				11,888	
	職 員 数		—				1.50	
	職 員 平 均 人 件 費		—				7,925	
	(A) + (B) 投下コスト						12,979	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源						12,979
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—				43,263
		市民1人当たりのコスト(円)		—				418

【事務事業の今までの成果】

平成12年開館後、文学館の事業を通して郷土の先覚者、佐藤義亮の顕彰に努めてきたが、この130年記念事業を開催することで改めて、その業績を市民に広めることができた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田魁新報（新聞）に、佐藤義亮伝が一年間掲載されたことにより広く県内にも義亮と新潮社を知らしめた。
事業に対する市民の意見 （事業に対する期待、要望、苦情等）	館内に設置していた胸像をセンター正面に移し、市民等に更に広く顕彰することができ好評を得た。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
E	A 現状のまま継続（実施）	単年度事業。 今後は文学館管理運営を充実していくことで義亮の意志を伝えていく。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
E	（事業終了）

一次評価診断図

